

# 京都のどこで“つぶやく”？ Where do you Tweet in Kyoto? – ジオタグ付きツイートによる観光客分布の把握の試み –

桐村 喬 Takashi Kirimura

日本学術振興会特別研究員・東京大学大学院工学系研究科, 立命館大学歴史都市防災研究所客員研究員  
JSPS Research Fellow, Department of Urban Engineering, the University of Tokyo, Ritsumeikan University

kirimura@csis.u-tokyo.ac.jp  
http://www.tkimura.com/

## 目的・背景

ツイッターを通じて日々大量に生み出される“つぶやき”(ツイート)には、位置情報(ジオタグ)を含んだものもある。ジオタグ付きのツイートからは、ユーザの位置や行動を把握することができるため、観光客の分布や周遊パターンの把握など、観光の実態分析にとって非常に有用な情報資源である。ただし、観光中の行動がすべてツイートに含まれているわけではなく、“つぶやく”場面・場所の基本的な特徴を整理・把握しておく必要がある。

そこで、観光都市・京都における短期滞在ユーザのジオタグ付きツイートの分布を示しつつ、ツイートする場所・場面について若干の整理を試みた。分析対象は2012年3月から2013年2月までであり、京都での短期滞在ユーザ(全ツイートに対する京都周辺でのツイートの割合が0より大きく半分以下)の日本語ツイートを抽出し、その密度を季節ごとに求めた。

## CityEngineを使ったツイート密度の視覚化

主要観光地のランドマークとツイート密度の対応関係をわかりやすく示すために、3次元都市空間を容易に視覚化できるCityEngineを用い、『MAPCUBE』をベースに、建物の高さや色の濃さでツイートの密度を3次元的に表現した。

季節ごとのツイート数は秋と冬に多くなるパターンを示し、観光客数の季節変化(2010年の京都市観光調査年報による)と類似していることから、短期滞在ユーザの分布は観光客分布と対応していると考えられる。どの季節も、京都駅と四条・祇園周辺に大きなピークがある点で共通し、ツイートが最も多くなる秋は、主要な観光地との対応関係が明瞭であり、平安神宮や東山、伏見稲荷大社、嵐山の周辺でもやや多くなる。冬は、伏見稲荷大社周辺での密度が非常に高く、京都駅と同水準の密度となっており、初詣客の多さが際立っている。

## まとめ：滞在中に“つぶやく”場面・場所

多くのツイートが集中する地域の特徴から、京都での滞在中にツイートする場面や場所は、以下のように整理できる。

- ①京都への到着時・京都からの出発時
- ②飲食店や宿泊先での滞在時
- ③観光地での滞在時
- ④年末年始のあいさつ

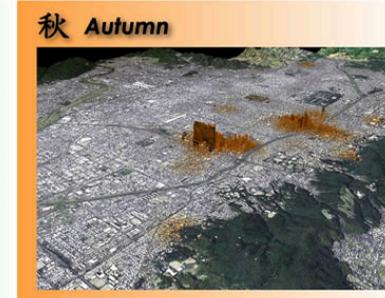
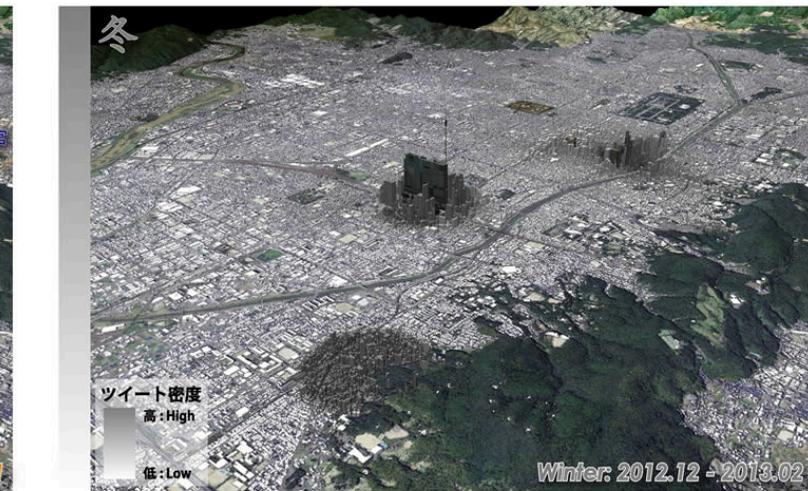
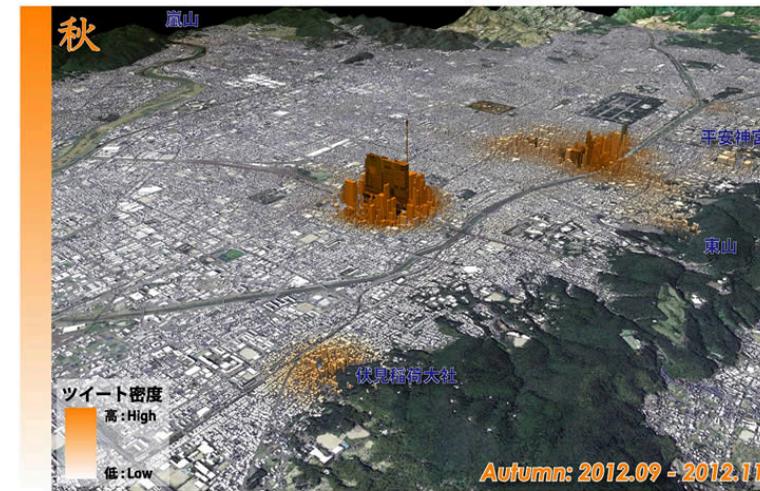
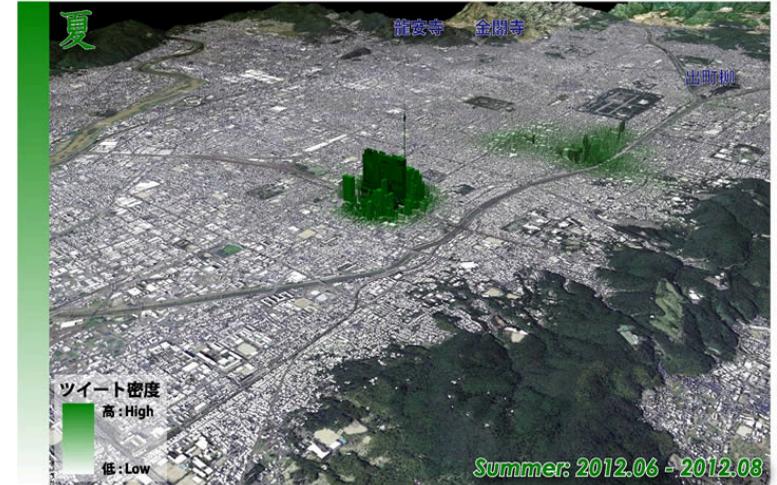
手間はほとんどないにしても、ツイートするには行動のなかでの一定の余裕が必要である。①から③の場面は、そうした余裕が生じやすい場面である。ただし、③の密度が①や②と比べてそれほど高くないのは、見学や移動のために、ツイートする時間的余裕が少ないためであろう。④は③とやや似ているものの、観光地でツイートするだけでなく、あいさつを兼ねたものである点で若干異なる。

短期滞在ユーザのツイートの分布は観光客分布とおおむね対応するといえるが、それを利用した観光行動の分析では、目的に応じてツイートする場面の特性を十分に考慮したうえで、ツイートの分布を解釈する必要がある。

## 補遺：英語ツイートの分布

ジオタグ付きツイートには、言語の情報も含まれており、英語など言語別に分析することも可能である。ただし、日本語のツイートに比べて英語のツイートは圧倒的に少ない。右の図は、短期滞在ユーザ(日本でツイートした期間が1か月以内)の英語ツイートの密度分布を示したものである。

京都駅や四条・祇園、伏見稲荷大社の周辺で多い点は日本語と同様であるが、主要ホテル付近(二条城周辺や四条・祇園のやや北の地域)でのツイートが多い点は特徴的である。また観光地での密度も高く、日本語とは分布パターンが異なる。しかし、特定のユーザによる集中的なツイートも見られるなど、英語によるツイート数・ユーザ数の少なさが分布の解釈を難しくしている。言語間の比較にはさらなるデータの蓄積や分析方法の改善が必要である。



※3次元都市データの『MAPCUBE』については、立命館大学地理学教室所蔵のものを利用させていただいた。